

美術科学習指導案（Ⅱ限）

授業者 牧原竜浩

クラス 4年D組 43名（男子22名，女子21名）

場 所 美術教室

1. 単元 「黄金比率」を通して科学的に「美」を考える

2. 単元のねらい

芸術作品とは、単に感覚や感情だけで表現されるものではなく、理論的に構築されることがその作品において重要な意味を持つてくるのであるだろう。そのための理論構築を学ぶことに重点を置いて、感性と理性とをバランスよく総合的に観察し考察する力を伸長することをねらいとする題材を設定した。

「サイエンスプログラム」で育まれる能力や資質・態度との関連については、この学習では特に「自然や社会の様々な事象を認知する能力」「読解力、表現力、コミュニケーション能力」の伸長につながることを目指している。

3. 単元計画

黄金比率の導き方	1時間
自然と数学	1時間
数学と美術	1時間
作品制作と作品解説	2時間（本時）

4. 単元の評価規準

この単元では、視覚芸術の作品を分析的に鑑賞・考察する能力とそれを通して論理的な思考力を高めることをねらいとしている。

- ①造形作品における構成要素を数学的に分析することができる。
- ②自然の法則と科学・芸術との結び付きを理解することができる。
- ③古代から現代までの芸術作品に共通する「美」の表し方に興味をもつ。
- ④造形作品を鑑賞する上で、自分なりに科学的論理的に分析し、その表現の特質や美しさを考察することができる。
- ⑤演習（表現体験）において、自然と科学をふまえて、自己表現をし、論理的に意見を述べたりすることができる。

5. 本時の主題

黄金比率のまとめ（作品制作と作品解説）

6. 本時のねらい

1. 黄金比率を用いた制作を通して、画面構成の技法を学ぶ。
2. 論理的・分析的に作品制作をしながら、自他の作品を解説できる能力を養う。
3. 「美しい」とはどういうものなのかを、自分で答えを考える。

7. 授業展開過程

時間	提示資料	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価基準・観点
導入 5分		○考えてきたスケッチをもとに作品制作をする。 (制作が進んでいる生徒は、引き続き制作する。)	・前時の復習	
展開 35分	過去の生徒作品 (抽象・具象)	○ B4 サイズの用紙に枠（縦29cm・横18cm）をつくる。 ○ 1 : 1.618 という比率になるように計算しながら、枠を黄金比に区切っていく。 ○ 画面全体のバランスを考えて修正や調整をする。 (線や明暗の強弱・アクセントをつける工夫をする。) ○ 自分の作品を解説できるように考えながら、作品を仕上げる。	・黄金比率になるように計算させる。 ・画面構成の技法を例を提示しながら、説明していく。 ・バランスよく構成されているか全体を確認させる。	学習活動の観察によって評価する。
まとめ 10分		○他の生徒の作品を鑑賞する。 ○自分がどら、授業の感想などをプリントにまとめる程度理解できているか確認しながらめる。	・自分の制作した作品を論理的に相手に伝えられるようにレポートをまとめる。	作品とレポートによって評価する。